

親密な対人関係における自己開示と被受容感が 個人的ならびに社会的適応性に及ぼす影響

——親への養育態度認知を踏まえて——

JIA JING

【目的】本研究は、親への養育態度認知を踏まえ、親密な対人関係における自己開示と被受容感が、個人的適応性および社会的適応性に及ぼす影響について検討を行うことを目的とし、2つの研究を行った。

【研究1】研究1では、母親への養育態度の認知ならびに母親との関係における自己開示と被受容感が本人の主観的幸福感に及ぼす影響のプロセスについて、検討を行った。それらの概念を測る尺度を使用し、大学生を対象として質問紙で調査を実施した。これまでの研究を踏まえて、2つの仮説モデルを設定し、どちらのプロセスが妥当であるかを検討するために、共分散構造分析を行った。その結果、母親への養育態度認知のケアが母親からの被受容感に正の影響を及ぼすことによって、母親に対する自己開示を促進させ、さらに、本人の主観的幸福感に正の影響を及ぼすという影響プロセスが明らかにされた。

【研究2】研究2は、研究1を踏まえて、母親への養育態度認知、さらに、母親および同性友人に対する自己開示と社会からの被受容感が、本人の個人的適応性および社会的適応性に及ぼす影響について検討を行った。それらの概念を測る尺度を使用し、大学生を対象として質問紙で調査を実施した。設定した仮説モデルを検討するために、共分散構造分析を行った。その結果、母親への養育態度認知のケアが、母親と友人に対する自己開示を促進させること、また、友人に対する自己開示が社会からの被受容感に正の影響を及ぼすことによって、本人の個人的ならびに社会的適応性にポジティブな影響を及ぼすことが明らかにされた。加えて、青年期での社会からの被受容感に影響を及ぼす経路は2つ存在しており、一つは、16歳までの養育態度認知のケアが直接青年期での社会からの被受容感に正の影響を及ぼすものであり、もう一つは、16歳までの養育態度認知のケアがまず友人に対する自己開示を促進させることで、青年期での社会からの被受容感を押し上げるという経路であった。

【総合的考察】本人の個人的および社会的適応性に影響する社会からの被受容感を向上させるには、個別の関係における自己開示が重要となってくる。この個別の関係における自己開示に影響するものは、個別の関係における被受容感である。つまり、日常生活における社会からの被受容感を押し上げるには、個別の関係における被受容感が重要であると考えられる。これらが青年期での社会からの被受容感を高めることによって、本人の個人的適応性および社会的適応性を向上させることが本研究で明らかにされた。